

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

地域報告会・ワークショップ 報告書

1. 日時 2020（令和2）年2月10日（月）14時00分～16時25分
2. 会場 常葉大学 浜松キャンパス 3号館3318講義室、3号館学生ホール
3. 主催 オリパラ教育浜松市内大学連携協議会、
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
4. 参加者 61名
令和元年度教育推進校 15校15名（富塚中学校欠席）
令和2年度新規教育推進校 11校13名
推進校以外の小中学校 1校1名
協力企業・団体 6社10名
協議会メンバー他 22名
5. プログラム
【第1部】 地域報告会
14:00～14:05 開会挨拶
浜松市教育委員会 教職員課 主幹 松島 賢 氏
オリパラ教育浜松市内大学連携協議会 会長 小柳 好生 氏
14:05～14:40 浜松市における教育実践事例の報告
浜松市立城北小学校 山田 真代子 氏
浜松市立花川小学校 宇野 主馬 氏
浜松市立都田中学校 仁尾 且樹 氏
14:40～14:50 HAMAMATSU SPORTS FES in 浜松アリーナ 実施報告
オリパラ教育浜松市内大学連携協議会 会長 小柳 好生 氏
14:50～15:00 全国中核拠点大学によるオリンピック・パラリンピック教育
アンケート結果報告及び他地域の実践事例紹介
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見英一郎 氏
研究員 岡田 悠佑 氏
15:10～15:30 協力団体・企業紹介
出席団体・企業の自己紹介 および今年度の活動内容を報告
ヤマハ発動機ジュビロラグビー部
橋本エンジニアリング株式会社
FC コレチーボ静岡
浜松ボッチャ倶楽部 COOL
株式会社 TOMO RUN
15:30～15:40 学生ホールへ移動・休憩

【第2部】 ワークショップ

15:40～16:20 グループ協議（実践報告、意見交換）

3グループに分かれ、今年度推進校からの実践と課題について報告を受け、協議が行われました。

全体共有

各グループから協議内容を発表し、全体共有を行いました。

16:20～16:25 閉会挨拶

オリパラ教育浜松市内大学連携協議会 副会長 大野木龍太郎氏

6. 結果

開会挨拶では、浜松市教育委員会の松島氏より、今年度の推進校への感謝とともに、本会が来年度の実践へとつながる重要な取り組みであることを述べられました。続いて、オリパラ教育浜松市内大学連携協議会（以下、協議会）の小柳会長より、本事業へ協力いただいた推進校に加えて、様々な関連団体への感謝の言葉とともに、今年度の取り組みの総括が行われました。

教育推進校の担当者による実践事例発表では、3校の教育推進校より今年度取り組んだ実践について、その過程を振り返りながら大変だった点や成果等について紹介がありました。

常葉大学との連携により取り組んだ都田中学校は、保健体育の授業と文化祭の時間を活用し、事前学習に国際パラリンピック委員会公認教材「I'm possible」を使用して、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義について映像やクイズを交えながら学びました。その後、パラリンピックの種目体験を実施しました。種目体験では、1、3年生全クラスは、常葉大学の櫻井准教授によるボッチャ、2年生3クラスが常葉大学神力助教によるブラインドサッカーを行いました。櫻井准教授は日本代表選手のコーチをされているということで専門的なことも中学生のために丁寧に、そして楽しく指導しました。事後指導の生徒アンケートで2020年のパラリンピックにあなたはどのような形で参加しますかという問いに、募金をする、外国人や障がい者のサポートをするなどの回答があり、生徒の目が、障害がある方々や世界の人々に広がった印象を受け、それが成果として感じられたのがうれしかったと発表がありました。

第2部のワークショップでは、今年度の推進校、次年度新規推進校、協力企業団体、協議会メンバーが3グループに分かれ、実践と課題についてグループ協議を行いました。講師の手配の方法や講師との打ち合わせ内容、さらにはキャリア教育や福祉教育と関連づけた事前・事後学習の実施方法など、多岐にわたるテーマでディスカッションが行われました。その中で、近隣の推進校間の連携の必要性など、教員の負担を軽減し、継続的にオリ・パラ教育に取り組むためのアイデアが多く出されました。



開会挨拶 松島氏



教育推進校 実践事例発表 ①



教育推進校 実践事例発表 ②



他地域の実践事例紹介



協力企業・団体の自己紹介



グループ協議



全体共有



閉会挨拶